

グリーン・ツーリズム

■グリーン・ツーリズムとは？

「農山漁村などに長く滞在し、農林漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ旅」ということ。長期バカンスを楽しむことの多いヨーロッパ諸国で普及した旅のスタイルで、日本でも最近「新しい旅のカタチ」として関心を集めています。ひとつの場所に長く滞在し、様々な田舎暮らしを体験する。当然、単なる観光旅行とは異なり、手に入れる感動もより深く、大きなものになるのがグリーン・ツーリズムの大きな魅力です。

今回、本町で取り組んでいる「グリーン・ツーリズム」について覗いてみたいと思います。

目次

- 02 グリーン・ツーリズムは今
- 06 第5回さつま町人権啓発フェスティバル
- 07 第12回さつま町水辺の楽校 鶴田龍舟祭
- 08 許しません！税金滞納
- 10 行政改革審議会
- 12 「かごしまの教育」県民週間
- 14 まちの財政健全化成績(指標)
- 15 農業振興地域整備計画 全体見直し
- 16 川内川激特・鶴田ダム再開発速報
- 17 防災・減災フォーラム2009
- 18 まちのニュース
- 21 シリーズ
「川を大切にしよう」②
- 22 暮らしの情報
- 25 シリーズ
がんばれ認定農業者！！
- 26 ひと仕事（さつまに生きる）
- 27 誕生・おくやみ
1歳で～す
こんにちは保健師です
- 28 人・夢
- 28 休日在宅医・薬局

■表紙の写真



第51回川薩畜産共進会
P18関連記事

とにかく来てもらって、体験してもらいたい！

現在、本研究会では、農作業などを体験して、宿泊していただく「体験型民泊」を中心に活動しています。四季折々のさつま町の姿を体験していただきたく、会員それぞれが季節ごとにプランを用意してお客様を受け入れています。

川内川の恵を受けた農業が中心の特性や紫尾山系に囲まれた中山間地域の自然豊かな地理的条件を生かし、町外の方々に少しでも本町を知ってもらい、交流してもらうことが、地元農家の活力につながると思っています。

県外の先進地研修などで感じることは、さつま町は決して先進地にも劣らない、むしろ優れている部分や誇れる部分がたくさんあるということです。

その部分を町外の人に来てもらい、見てもらい、評価していただくことで、本町の価値が広がると考えています。

県内でも比較的先進的な取り組みと評価をいただいていますが見かけ倒しにならないように、足元をしっかり固めて、一時的では終わらない、継続性のある活動を行なっていきたいと思っています。

今後は、学習旅行生の受け入れなども視野に入れ、それに対応できるよう、宿泊施設が増えることを期待しています。



さつま町グリーン・ツーリズム研究会

会長 山下康博 さん
(さつま町二渡)

さつま町グリーン・ツーリズム研究会

設立：平成19年3月22日

会員：34名(平成21年9月現在)

事務局：さつま町役場農政課

さつま町の先進的な取り組みに期待！

近年、「スローフード」や「スローライフ」を始めとして、農村が有する「ゆとり」や「やすらぎ」といった価値が見直されてきており、都市住民が余暇を利用して農村に滞在し、農作業体験などを通じて、自然や文化、地元住民



鹿児島県 北薩地域振興局
農林水産部 農政普及課
(北薩地域グリーン・ツーリズム推進協議会事務局)
今徳かおり さん

との交流を行う「グリーン・ツーリズム」への関心が高まっています。

このような中、北薩地域においては地域活性化につなげるため、農家のライフスタイルそのものを体験できる農家民宿への取り組みが県内でも先進的な事例として実践されており、「さつま町グリーン・ツーリズム研究会」や「薩摩川内市グリーン・ツーリズム推進協議会」などを中心に活動が展開されています。

しかしながら、市町単位での取り組みが多く、市町間など横のつながりが少ないことから、地域全体の底上げと情報発信力を強化するため、より広域的な取り組みとして、さつま町、長島町、出水市、阿久根市、薩摩川内市で構成する「北薩地域グリーン・ツーリズム推進協議会」を設置しました。

当協議会では、地域内資源の調査、実践塾の開催、先進地研修の実施などを行うとともに、3つの基本戦略からなる、「北薩地域グリーン・ツーリズム戦略プラン」を検討し、策定いたしました。

さつま町では、グリーン・ツーリズム研究会の設立、受入体制の整備など、県内でも先進的に取り組み、今後更に、研究会を中心とした活動が期待されます。

